

2022ぐんま教育のつどい



第一部 講演会

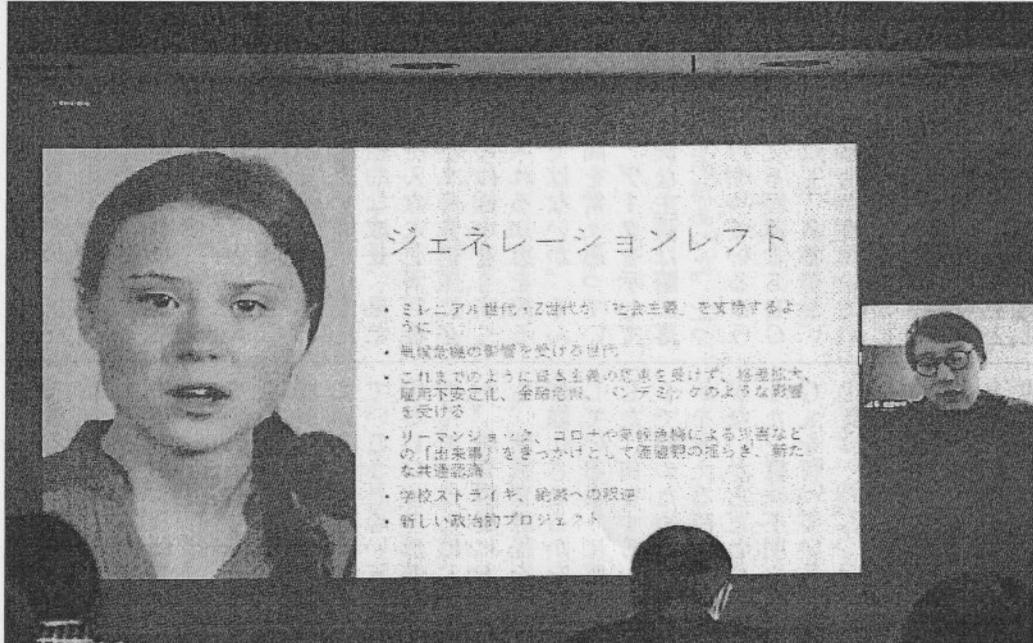
「SDGsを超えて」
講師 大阪市立大学大学院准教授

齋藤幸平氏

前橋市大手町 3-1-10

群馬高教組

027-231-2784
ghtu@educas.jp
http://www.ghtu.org/



ジェネレーションレフト

- ・ミレニアル世代・Z世代が「社会主義」を支持するようになる
- ・環境危機の影響を受ける世代
- ・これまでのように経済主義の恩恵を受けず、格差拡大、雇用不安定化、金融危機、パンデミックのような影響を受ける
- ・リーマンショック、コロナや気候危機による被害などの「出来事」をきっかけとして価値観の揺らぎ、新たな共通意識
- ・学校スタイルや、総務への転進
- ・新しい政治的プロジェクト

「第一部・講演要旨」
○持続可能な社会の実現に向けてあなたは何かをしていますか？
「SDGsは大衆のアクション」・消費者としての選択で満足してしまっている。・SDGsは意味がない、むしろ有害である。企業はブランドとして利用。今までのおりの生活を続ける免罪符。教育の力にキウラムにおいても内在化、危機感の欠如となる。個人の行動など今すぐできることに矮小化されてしまい、大きな視点がもてない。
○「グレートリセット」
・ポストコロナの「ニューノーマル」がどうなるかが分岐・資本主義の2つの危機（気候崩壊と経済危機）慢性的な緊急事態を迎えグレートリセット（大胆な転換）がダボス会議などでも提唱されている。
○環境も経済も？

2月11日（金・祝）恒例の「ぐんま教育のつどい」がオンライン配信で開催されました。コロナの第6波が収まらず、まん延防止等重点措置が適用される中、昨年に続き、オンライン利用での開催となりました。今回は「人新世の資本論」で注目されている齋藤幸平氏を講師に迎え、第一部講演会を行い、それを受けて第二部意見交流会で参加者にも積極的に参加・発言していただき、これからの社会や教育の課題について考えました。参加者数は約百人でした。オンライン申込みの約半数が組合員以外の方で、例年よりも一般の方の参加が多かったのが特徴的でした。

- ・EV、再生可能エネルギー半ばグリーンニューディールによる経済成長で安定した高賃金の雇用、有効需要の拡大
↓これで解決可能？
・マックのハンバーガーを食べることがサステナブル？24時間営業や低賃金労働が見えていない。事態を矮小化してはいけません。そうしたものに依存しない。
○日本は二周遅れ
・日本の対立軸は原発・火力対EV・再エネ
・世界では緑の資本主義対脱成長
・グレッタ・トゥーンベリ氏らジェネレーションレフト（ミレニアル世代・Z世代）は資本主義のもとでの格差、環境危機を問題化。
○なぜ世界で緑の資本主義が問題になるのか。
1・5度（に気温増加を抑える）に十分か。
○緑の成長という神話
・先進国における数値



の減少はアウトソーシング（外部化）の結果。先進国が途上国を犠牲にしている。
○想像力の貧困化
・自分たちの生活・社会を考える、市場・技術が変えてくれる↓現実逃避ではだめ。経済成長を続けるか脱炭素社会を目指すか。
○なぜ脱成長
・分かち合い（「モン」）
・平等な社会は環境負荷が低い。
○新しい快樂主義
・資本主義で失われている別の可能性（家族との時間・趣味・ボランティア）。もっと平等で、もっと自由で、もっと公正に。

○「人新世の教育」
・若者の「保守化」？
若者は大人の姿を見ている。Z世代がマジョリティになるまで、あと20〜30年。現在もブラック校則、受験競争、部活など問題があるが、教育を「モン」にしていくには？

○アイルランド大統領マイケル・D・ヒギンズは西欧で脱成長を初めて宣言。資源利用は「十分に絶対的に」減少しなくてはならない。

齋藤幸平（さいとう・こうへい） 1987年生まれ。大阪市立大学大学院経済学研究科准教授。ベルリン・フンボルト大学哲学科博士課程修了。博士（哲学）。「ドイッチャー記念賞」を日本人初、歴代最年少で受賞。日本国内では、晩期マルクスをめぐる先駆的な研究によって「学術振興会賞」受賞。40万部を超えるベストセラー『人新世の「資本論」』（集英社新書）で「新書大賞2021」を受賞。

「参加者の感想」

【第一部・講演会】

○「人新世の資本論」を再度読んで理解を深めたい。別の生活、社会を思い描くべき、という考え方は大変参考になりました。

○斎藤先生は行動を伴う研究者なのだと思感しました。自分も、若い生徒たちにどうしたらよいのかという示唆を与えられるよう、身近なところから諸問題を深く考え続けたいと思いました。

○斎藤先生の考えがコンパクトにまとめられた分かりやすい講演でした。まずは、大人たちが現代社会の問題に真正面から取り組まなければいけないことを感じました。また、ジェネレーションレフトを育てるためには、画一的な考えの押し付けをせず、それぞれの世代における課題を自分たちの頭を使い解決することが大切だということが分かりました。

めに、自分が何をすべきか考えるヒントになりました。

○斎藤さんが単なる理論家ではなく、活動家でもあったことに感動しました。大阪市立大の事例を色々なところで話したい。

○持続的な成長、果たしてそんなことが可能なのか？今先進国に必要なのは縮小をうまく受け入れる知恵を絞ることではないか。そんな疑問を常々思っていたが、データを示しての明快な主張は腑に落ちるものがあった。上っ面だけやっていように見える軽薄なSDGsでなく、自然環境、人間の生活環境をこれ以上悪化させない為に本質的に必要なことは何か。かなり強烈に感じる人もいる主張を日本の研究者の意見として聞けたのはとても嬉しかった。これから勉強し、行動していきたいと思った。

○私たち教師がまずは学び、行動できるようにならなければ、社会は変わっていかないと思いました。斎藤先生が「考え、自ら行動

できる人」なのだ、講演を通じて分かりました。同様に、私たちの姿を見せられるようにならないことなどできないと思いました。斎藤先生の本を読み進めながら、自身も行動していこうと思います。

○SDGsの形骸化が進んでいると感じました。教育現場においても、新教育課程をどう形骸化させるかを議論しているように感じました。何をするかばかりで何のためにするかを考える時間的余裕がないからだと思います。意味不明なSDGsを行っている企業も忙しいのだろうか。...

○斎藤さんは、テレビやネットでの講演などの時と同じように、マルクス研究の第一人者として使命感をもって、脱成長、コモンの必要性を明快に説明され、聞いている方も気持ちよくなるほどでした。

○私たちが教育の課題を突きつけられ、かなり冷や汗も。学校教育の課題を参加者で共有でき、第二部につながったと思います。

【第一部・意見交流会】

○武さん(伊勢崎清明)

市民の立場から学校教育に望まれること・望むこと、そのためにはどのような環境を整備しなくてはならないか。斎藤さんの著作を読んだ、個性・主体性の重視の大切さを感じた。若者の声を上手にいかせるシステムが必要。

○大島さん(前橋女子) 専門任せではなく市民で。熱心な先生の熱心さを止めるべきがない。モデルケースになつてしまおうと民主的でない。

○千明さん(伊勢崎清明) ドイツの地方政治では市民が予算作成に参加。目指す社会像として参加型の市民社会。...

○斎藤さん(天田フレックス) 生徒が接する教員以外の身近な大人は保護者。社会が変わることを生徒に啓発するならば保護者も啓発する必要がある。

○加藤さん(一般・群馬子ども権利委員会) 主体的といっても指導要領の枠内にとどまっている。変革していく力を身につけていくこと。生徒が関心を持つ

ていることに教員が関心を持つ。

○富所さん(一般・吉本興業アンカンミンカン) SDGsが優秀なシステムとしても、それを担う人間のマインドが変わらないと持続可能な社会の実現は難しい。これまでの常識・当たり前を考え直してみることが必須。質問；滑り止めの大学の合格の権利を保持するためにお金を払うことはあるべき当たり前なのか。

○片亀さん(一般・環境NPO役員) 脱成長に逆行する動きとしてリニアがある。大量の電力消費、南アルプスを掘りぬく環境破壊。問題の本質を理解するための情報が提供されていない。高崎経済大学の学生に意見を聞く情報提供の前後で賛成・反対が逆転した。

○田中さん(一般・中学教員) (斎藤先生が大学で原発反対の運動をした話をきいて) 理論だけでなく活動して感じて感心した。校則改正など校長のパワハラ・威圧でできない。太陽光発電の署名を集めたから怒られた。考えるこ

とを拒否している先生が多い。

○高柳さん(高校生) 校則を変える活動をしている。味方をしてくれる教員が少ない。

○堀込さん(一般・高教組OG) 政治の話が身近に出来ていない。署名をお願いすると「大丈夫です」と拒否される。関心のあることを聴いてもらうだけでなく、生徒の関心のあることに目を向ける。

○田口さん(前橋清陵) 生徒の感想の報告

①社会の脱炭素化で自分の生活が悪化する。

②グレタさんを否定するような冷笑主義を批判。本気で考えている人たちと一緒に。③親や教員の話を理解しても自分には実感がない。直接関心がない。今の教育は正直、生徒に危機感を持たせられない。

【参加者の感想】

第二部・交流会

○多くの人の意見を聞けてよかった。しかし、ここに参加している人たちが問題意識をもっているのは当然です。問題意識をもっていない人たちに、どうやっ

て伝えていけばいいの

か、常に悩んでいます。

○普段の職場ではなかなか出ない話題が多く、面白い機会でした。また、こうした内容に興味を持っていることにも勇気づけられました。

○今後の授業をつくっていく上で、大変有意義なものとなった。授業を通して、情報発信をしたり、考えること、主体的に行動することの大切さを伝えている。今回、情報を伝えること、生徒の側の興味関心に耳を傾けることの大切さを認識した。生徒と対話をする中で、その内容を現代社会の抱える問題点につなげ、どんな問題も私たちの生活に結びついていることを示していきたい。

○若手の先生の問題提起や実践報告、高校生の不満や要望は若い世代の発言として頼もしく、今後が楽しみです。また、片亀さんのように環境問題について豊富な経験と実績を持たれ、大学でも指導されている方に参加していただいて、勉強になりました。